

愛媛県議会議員

中田こうたろう

愛南から

愛媛を元気に。

県政 ジャーナル

No.3

令和3年1月

Prefectural government Journal



愛媛県議会

令和2年度12月定例議会



活動のご報告

activity report

謹賀新年



本年も宜しくお願い申し上げます

ごあいさつ

令和3年 新年を迎えて

新春の候、寒い日々が続いておりますが、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。全世界を騒がせている新型コロナウイルス感染症について、本年3月に、愛媛県そして県議会として、愛媛県議会新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ、様々な対策や施策を講じているところでありますが、まだまだ収束の見込みは立たず、全国でも多くの感染者がでており、県内においても、いつ感染爆発が起こるか分からない状況にあるといえます。

8月臨時補正予算、9月補正予算においても新型コロナ対策関連の予算が多く生まれ、この度の12月補正予算でも新型コロナウイルス感染症の対応として54億9622万円もの予算を可決しました。県民の皆様の健康や暮らしに混乱や障害が生じないようにスピード感を持ってしっかりと取り組んで参ります。皆様の暮らしの中での困り事や、困っている声を聞いた等ございましたら、いつでもお聞かせください。

先般の愛媛県議会12月定例会にて、3度目の一般質問を任せて頂き登壇して参りました。コロナ禍、アフターコロナを見据えた政策をはじめ、地元の喫緊の課題である医療や高速道路整備などについて質問を行いました。2～4ページに内容をまとめましたので是非ご覧になってください。



 有権者に年賀状を送ることは違反になりますので、本誌をもって年始のご挨拶とさせていただきます。

愛媛県議会 令和2年度12月定例会 一般質問と答弁の概要

デジタル化による県庁の働き方改革を進める仕組みや市町との連携について

新型コロナウイルスの影響により、社会は大きな変革期を迎えている。商談や就職活動、各種イベントがオンラインで行われるようになり、テレワークも多くの企業で導入され、日本全体でデジタルトランスフォーメーションが加速しつつある。

県庁や地方局の現場では、帳簿や台帳をめくりながら申請内容を確認する昔ながらの事務作業も多く、データの電子化や自動化、AIの活用を行う余地は大きい。個々の県職員が最新の技術を習熟するには、時間や手間が掛かるため、改めて事務の方法を見直し、改善手法の提案や助言が得られる組織、仕組みを構築していくことが有効である。本県独自の手法を構築できれば、全国に先駆けた取組みになる。

さらに、市町とも連携しながら取り組む必要がある。昨年度の国の調査によると、RPAの導入状況は、都道府県では85%、政令市で70%であるが、市区町村は18%にとどまっている。特に市町は、情報技術やシステム構築に詳しい職員が限られており、職員の育成などICT化・デジタル化の分野でも、本県の強みであるチーム愛媛の力を発揮してほしい。

県庁の働き方改革は県内企業を引っ張る意味でも、職員の負担軽減だけでなく、県民に幸せをもたらすものにしていくことが重要である。新たな企画の立案時間や現場の滞在時間を増やすためにも、働き方改革を進めてほしい。

県庁内のデジタル化・働き方改革を具体的に進めるための仕組みや、市町への支援について、愛媛独自のモデルを構築しつつ進めて頂きたいが、県としてどのように取り組んでいくのか。

【答弁者：高石総務部長】

本県では7月に新しい働き方チャレンジ宣言を行い、テレワーク端末やWeb会議システムの増強を図るとともに、スマートオフィスの整備やペーパーレス化など、デジタル技術の導入を鋭意進めている。

また、本県の強みである県・市町連携を軸に、民間との協働を融合させた仕組みにより、本年10月からAI総合案内サービスを本格実施するとともに、個々の業務プロセスや業務時間を見える化し、負荷の大きい照会回答・申請手続き業務などの省力化に向けて、事務の標準化やシステムの共有等にも取り組んでいる。

◆ 今後は、包括協定を締結したIT関連企業や専門人材の知見を最大限活用し、県民サービスや災害対応力の向上等に資するようデジタルシフトを加速・深化することとしており、デジタルトランスフォーメーションに即応できる、先進的・実効性のある働き方改革を目指し、市町とも連携しながら、愛媛ならではの独自モデルの構築に取り組んで参りたい。

県立南宇和病院の常勤医師の確保や若手医師の育成について

本県で特に医師不足が深刻化しているのは愛南地域であり、令和元年度の県公営企業会計決算審査意見書でも、医師確保や診療科の維持について、特に県立南宇和病院では半数を超える診療科で常勤医師が1人もいない深刻な状況にあると指摘されている。同病院の常勤医師は10人であり、定数22人の確保に向け、引き続き様々な施策で取り組んでほしい。

地方には、医師不足や経営難の公立病院は多くある。三重県の志摩市民病院は2015年に年間約7億円の赤字を計上し、医師が一斉退職したが、1人残った若手医師が新院長に就任し、経営を立て直すとともに、今では志摩市南部の回復期医療や緩和医療、在宅医療において重要な役割を担う中核病院になっているとのことである。この復活劇は、しっかりとしたビジョンを持ち努力を重ねた必然であり、患者の受入れは絶対に断らないことを基本理念に病院内の風通しを良くし、地域住民、高校生、医大生などを巻き込んで人づくりや街づくりにも積極的に取り組み続けたとのことであった。

県は、本年4月より県立南宇和病院内に愛媛大学医学部地域医療学講座のサテライトセンターを設置し、学生の教育において、県と町の連携に向けた動きが強まっている。この取組みが、南宇和郡の基幹病院である県立南宇和病院を官民が一体となって更に盛り立てていく契機になってほしい。

県として今後、医師の確保や育成にどのように取り組んでいくのか。

【答弁者：山口公営企業管理者】

愛媛大学からの医師派遣や自治医科大学卒業医師の配置に加え、公募や全国自治体病院協議会の紹介制度等も活用して医師の確保に努めており、今年度は新たに地域医療や若手の指導に精通した総合診療医を採用するなど、常勤医師は前年度比で2人増加した。

また、今年度から新たに愛媛大学地域医療学講座のサテライトセンターを南宇和病院に設置し、同病院を核に、実習や研修を通じて、医学部生の地域医療への動機づけや、地域医療の知識・技量を身に付けた若手医師を養成する体制の強化を

図っており、今後、愛南町や地元医師会等と一層緊密に連携しながら、愛南地域ならではの魅力ある研修体制を構築し、地域を挙げて若手医師を招き、育てることにより、南宇和病院の医師確保と愛南地域の医療提供体制の充実につなげて参りたい。

ワーケーションやアウトドア関連施策の推進による南レク公園への誘客促進について

南レク公園の利用者数は、平成7年の75万9,913人をピークに減少し、昨年は33万9,398人と、ピーク時の半数にも届かず、最近では施設も老朽化し、宇和海展望タワーも運行休止したままとなっている。

本年7月、内閣官房長官が、新しい旅行や働き方のスタイルとして政府も普及に取り組んでいきたいと発言し、注目されたのがワーケーションであり、観光地やリゾート地、地方等で休暇を取りながらテレワークをする働き方がメディアでも大きく取り上げられている。実際の運用では課題もあるが、企業、地域、個人にメリットがあり、地域の活性化に有効な、アフターコロナ時代の新しい働き方と休み方である。これからの時代を見据え、企業はステップを踏みつつ、ワーケーションやファミリーワーケーション、テレワークに積極的に取り組む過渡期であり、県も積極的に推進していく必要がある。

また、グランピングが感染リスクの少ない旅のスタイルとして注目されている。敷地内に温泉やアスレチック、収穫体験ができる農園などが用意され、人気となっている施設もあり、感染リスクを避けながらストレスや巣ごもり疲れを解消でき、キャンプの初心者がサポートを受け、豪華かつ快適に過ごせるのが良いところでもある。

県内には、ワーケーションやファミリーワーケーション、グランピングなどに生かせる場所が多くある。特に南レク公園とその周辺地域には、豊かな自然や食文化とともに、全国に誇る水産業や柑橘を中心とした観光農園など、趣向を凝らして活用できる魅力的なツールがあり、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて、県として南レクの活用をどのように推進していくのか。

【答弁者：葛原土木部長】

南予レクリエーション都市公園は、開園から40年以上が経過し、来園者が大きく減少しており、利用者の価値観やライフスタイルの変化等に対応した利用促進策を強化することが極めて重要である。

来年開催する「えひめ南予きずな博」と絡めて、その魅力を県内外に広く情報発信するとともに、現在、「推進協議会」を設置して誘致に取り組んでいるワーケーションの滞在者や、クルーズ船の寄港による外国人旅行者など新たな客層を取り込

むことで、来園者の増大を図りたいと考えている。具体的には、ウィズコロナ時代におけるワーケーション導入への動きやアウトドア人気の再燃を踏まえ、釣りやサイクリング等と組み合わせたキャンプの提案や、散策からアクティビティまで楽しめる南レク公園の多様な魅力の発信を行うことで、誘客促進を図り、南予地域の活性化につなげて参りたい。

高速道路の南予延伸に向けた現状と今後の取組みはどうか。

本県で唯一高速道路の届いていないのが愛南町である。高速道路等は、ネットワークを形成してこそ本来の機能を発揮できるものであり、未整備区間の整備促進が望まれている。1日も早い高速道路の南予延伸、ミッシングリンク解消に取り組んでほしい。

高速道路の延伸は、利便性の向上だけでなく、災害時の避難や物資の輸送、復旧復興を早く進めるためにも必要であり、災害時における高速道路の必要性や有効性は、近年、日本各地で頻発する大規模災害でも証明されており、高次医療機関へのアクセスの向上など、救急活動の円滑化にとっても不可欠である。また、広域物流や地域間の交流・連携に大きな役割を果たすものであり、地域の自然、歴史、文化等の地域資源を活用し、活性化を図る上で重要な社会経済基盤である。特に愛南地域は、社会生活で自家用車への依存度が高く、高速道路は地域住民にとって必要不可欠な生活基盤でもある。

アフターコロナ社会における都市間・地域間競争でも、高速道路等はその前提として各地域に整備しなければならない基礎的な社会インフラであり、高速道路ネットワークの整備がなければ、地域間格差が更に拡大することになると懸念する。また、これからの南予地域ひいては四国西南地域の発展のためには、連絡性の高さが重要であり、5町村が合併し、広い土地に住居が点在している南宇和郡にとっては、どのようにインターチェンジを設置するのもかも重要となる。

県として住民生活にとって有効な高速道路の早期南予延伸にむけてどのように取り組んでいかれるのか。

【答弁者：葛原土木部長答弁】

国が整備中の津島道路については、今年度内に新内海トンネル約2.5kmにも工事着手する予定である。

また、未着手の内海・宿毛間については、現在、国が詳細ルート等の検討を進めており、県では都市計画決定の事前準備に取りかかっているほか、愛南町では南海トラフ地震などに備え、高速道路の機能を効果的に活用するため、御荘IC周辺で防災休憩施設の検討に着手している。

県としては、今後とも、関係機関との緊密な連携のもと、地域防災力の強化や水産物の販路拡大

など、高速道路を活かす地方の取組みと熱意を国に伝えながら、ミッシングリンクの早期解消を強く求め、高速道路の南予延伸の一日も早い実現に向け、全力で取り組んで参りたい。

本県柑橘農業の更なる発展が望める 樹園地の再編整備について

本県は、全国に誇る柑橘王国であり、柑橘は本県農業の礎であることはもとより、地域農業をけん引し、農村の活性化に貢献するとともに、みかんによって豊かで潤いのある食生活を全国に供給している。一方、柑橘農業を担う農家は急速に高齢化が進んでいるほか、園地での作業条件の悪さなどによる後継者の減少に加え、生産基盤整備の立ち遅れなど、生産の現場では構造的課題に直面している。

将来の本県柑橘農業を考えると、今の園地よりもっと効率的で防災面に優れた緩傾斜園地に整備していくことが必要である。

県が進める再編復旧は被災園地だけでなく、周りの健全な園地も取り込み、大規模に造成するものであるが、被災・未被災にかかわらずこれまで収穫してきた樹木を伐採し、新しく苗木を植え付ける作業が必要となる。全国みかん生産県議会議員対策協議会では国に対し、苗木の植付けに対する支援の充実を求めたところである。

西日本豪雨からの復旧復興として取り組む再編復旧を始めとする園地再編の取組みは、傾斜を緩くし、排水対策も施すなど、これまでの園地に比べ格段に営農しやすく、災害にも強くなり、本県柑橘農業を更に発展させる有効な手段になると期待しているが、樹園地再編整備を県としてどのように取り組んでいくのか。

【答弁者：知事】

近年頻発する大規模災害や深刻化する担い手不足に対応していくには、災害に強く生産性の高い園地への再編は不可欠と認識している。

このため、県では、農作業の省力化や効率化に資する園地の緩傾斜化や園内道等の再整備に加えて、ハウス栽培や最新のかん水技術等の導入、周年供給体制の確保など、多様化する営農形態にも対応できる園地を目指して再編整備を推進しており、西日本豪雨で被災した4地区での再編復旧に加え、砥部町や松山市堀江地区の計画策定や新たな候補地での地元合意の形成にも取り組んでいる。

今後は、先行している地区をモデルに、効率的で収益性の高い栽培を可能とする施設・設備の整備や紅プリンセスなどの県産オリジナル品種の積極的な導入などを進め、樹園地の再編整備の効果を発信することにより再編の動きを他産地へも波及させ、先人の築き上げた「かんきつ王国えひめ」の持続的な発展を支える生産基盤の強化を図って参りたい。

感動のエピソードや愛顔の写真の応募状況と全国PRに有効なイベントにむけての取組みについて

愛顔感動ものがたり事業で紹介されるエピソードは、人々が「愛顔」を実感できる心温まるものとなっている。今年は、新型コロナウイルスの影響により、国民が様々なことに我慢を強いられ、厳しい状況に置かれているが、このような時だからこそ、私たち1人ひとりが家族や友人、同僚や隣人など、相手に対する思いやりを持ち、どのような困難にも笑顔で挑戦していく姿勢を持つことが大事である。

毎年2月に開催されている表彰式イベントでは、受賞者を招待し表彰するとともに、受賞作品の朗読や動画の上映などが行われ、涙あり、笑いありの、温かい感動に包まれるものとなっており、開催を心待ちにしている県民は多いと聞く。前回の表彰式は、新型コロナの影響により無観客での開催となったが、新審査委員長を迎えた今年度は、多くの人の来場の下、開催できることを強く願っている。また、感動のエピソードや愛顔の写真を全国に向けて発信する、心温まる取組みとして根付きつつある本事業の魅力を広め、全国各地にコロナ禍にも負けない大きな愛顔の輪が広がっていくことを願うところであるが、今年度の感動のエピソードや愛顔の写真の応募状況と、全国に注目される表彰式イベントにすべくどのように取り組まれているのか。

【答弁者：知事】

今回の愛顔感動ものがたり発信事業では、エピソード部門には、全ての都道府県と7か国から過去最多の4,961作品、写真部門には44都道府県から昨年度を上回る5,130作品の応募があった。

先般、私も参加し、受賞作品を選考したが、いずれ劣らぬ力作揃いで、審査委員一同大いに頭を悩ませることとなり、応募作品のレベルの高さに驚くとともに、その中でも、とりわけ愛顔と感動に溢れた素晴らしい受賞作品をコロナ禍に苦しむ県内外の皆様にも広くお届けし、元気や勇気を与えたいとの意を強くした。

その表彰式イベントは、感染症対策を徹底したうえで、来年2月28日(日)に県民文化会館で実施予定としており、エピソード朗読者として、新たに、現在大ヒット中のアニメ作品「鬼滅の刃」の挿入歌を歌い、注目されている、宇和島市出身の声優中川奈美さんに加わって頂くとともに、インターネットによるライブ配信を実施するなどにより全国に向けた発信力を一段と高め、本事業の魅力はもとより、愛顔あふれる本県のPRを図って参りたい。

令和2年度 8月補正予算の 主な事業

- I 新型コロナウイルス感染症によって生じている諸課題に対しては、これまで5回の補正予算を編成し臨機に対応 《<コロナ予算総額794億円> (R元年度:5億円、R2年度:789億円)
- II 今回は、国の第2次補正予算で増額された新型コロナ地方創生臨時交付金を活用し、「感染第二波への対処戦略」に掲げる3つの作戦に基づく本県独自の各種施策について、感染拡大防止と社会経済活動のバランスを取りながら県民総ぐるみで推進 《<8月補正169億円> → 総額 963 億円 (R元年度:5億円、R2年度:958億円)

1 感染拡大と医療崩壊を防ぐ 11億6,178万円 ◎は新規施策を含む

◎ ① 保健所における患者搬送用車両の整備と衛生環境研究所の検査機器の拡充	1億 699万円
◎ ② 県立病院における感染リスク低減に向けた自動精算機や衛生環境等の整備 <small>《<病院事業会計></small>	3億1,158万円 3億1,158万円
◎ ③ 福祉施設団体が県と連携して行う対応力向上研修への支援	489万円
◎ ④ 県の社会福祉施設における感染リスク低減に向けた衛生環境の整備	2億6,041万円
◎ ⑤ 災害時に避難所となる集会所の衛生環境整備に取り組む市町への支援	8,556万円
◎ ⑥ 市町の避難所運営を支援するための段ボールベッドなど衛生資材の県備蓄	7,465万円
◎ ⑦ 市町の廃棄物処理に係る事業継続計画（BCP）の策定支援	612万円

2 地域経済を立て直す 68億6,649万円

(1) 新たなビジネスモデルの定着促進	24億1,700万円
(2) 大胆な消費喚起策の推進 【誘客促進と受入態勢の充実】 12億4,384万円	25億6,909万円 【県産農林水産物の販売促進】 13億2,525万円
(3) 事業継続や雇用維持に向けた支援	18億8,040万円

3 新しい生活・ビジネス・文化のスタイルを実践する 88億6,599万円

(1) デジタルシフトの加速	9億 884万円
◎ ① 県政のデジタル変革に向けた官民対話型Webサイト構築や民間の人材育成支援	1億5,541万円
◎ ② 県庁の新しい働き方の推進に向けたスマートオフィスやテレワーク環境の整備 <small><他></small>	5億8,309万円 1億7,034万円
(2) ICTを活用した学習支援等の充実	42億1,629万円
◎ ① 県立学校にパソコンの児童生徒1人1台端末や電子黒板等の配備	20億1,426万円
◎ ② 県立学校や総合教育センターの感染リスク低減に向けた衛生環境の整備 <small><他></small>	20億8,845万円 1億1,358万円
(3) スポーツ・文化活動等への支援	3億7,901万円
◎ ① 日本スポーツマスターズ2020愛媛大会等の代替大会の開催支援	3,363万円
◎ ② 県内プロスポーツ球団の公式戦における感染防止対策や集客促進への支援	8,457万円
◎ ③ 特別支援学校等へのeスポーツ用機材の整備やオンライン大会の開催	913万円
◎ ④ 県有文化施設や県武道館の感染リスク低減に向けた衛生環境の整備 <small><他></small>	1億6,964万円 8,204万円
(4) 公的空間の環境整備	33億6,185万円
◎ ① 県本庁舎等における感染リスク低減に向けた衛生環境の整備	23億3,227万円
◎ ② 運転免許センターの衛生環境の整備と警察施設へのサーモグラフィ等の整備 <small><他></small>	2億2,756万円 8億 202万円

予算規模

◆ 一般会計補正予算額	165 億 8,268 万円	【累計 7,504 億 2,341 万円】
◆ 企業会計補正予算額	3 億 1,158 万円	【累計 729 億 3,519 万円】
◇ 予算総額	168 億 9,426 万円	

令和2年度 9月補正予算 について

- I 新型コロナ対策として、医療・検査体制等の一層の充実を図るほか、企業の新たな事業展開や住民生活の維持を引き続き支援
- II 西日本豪雨災害への対応として、市町の災害復旧事業を受託して進捗を促進するほか、県民の安全・安心を確保するため、県独自の緊急防災・減災対策（避難道路や河川、砂防施設等の整備）を積極的に推進
- III プロ野球オールスターゲームの開催に向けた機運醸成など、当面する課題に対応

1 新型コロナウイルス感染症への対応 97億 493万円 ◎は新規施策を含む

(1) 医療・検査体制等の充実

74億6,478万円

コロナ対応予算総額：1,060 億円
(R元年度：5 億円 R2年度：1,055 億円)

- ◎ ① えひめ福祉支援ネットワークに参画して応援職員を派遣する法人への協力金の支給 390万円【コロナ基金】
- ◎ ② 妊産婦に対する分娩前PCR検査の自己負担を無償化するための支援金の支給 1,520万円【コロナ基金】
- ③ 新型コロナウイルス感染症対策応援基金への寄附金の積立て 4,303万円
- ◎ ④ 県内6医療圏域におけるドライブスルー方式などによるPCR検査体制の構築 1億9,200万円
- ◎ ⑤ 高齢者福祉施設が実施する個室化改修への支援 156万円
- ⑥ 医療従事者等応援手当金の支給や感染症患者の受入病床確保（下半期分） 67億 584万円
- ⑦ 無症状や軽症患者の療養を行うための宿泊施設の借上および運営（下半期分） 3億8,804万円
- ⑧ 感染症患者受入病院の医療従事者への宿泊費支援（下半期分） 5,077万円
- ⑨ 衛生資材や検体の搬送などに係る保健所の体制整備（下半期分） 6,444万円

(2) 新たな事業展開と生活維持への支援

22億4,015万円

- ◎ ① 県内企業へのマスク生産設備の導入や感染症対策製品の販路開拓の支援 3,253万円
- ② 生活福祉資金の特例措置による生活を維持するための貸付け 22億円
- ③ 生活困窮者への住居確保給付金の支給 362万円
- ◎ ④ 私立専修学校の授業料減免措置と連動した家計急変世帯の生徒への支援 400万円

2 西日本豪雨災害等への対応と防災・減災対策の推進 43億5,464万円

(1) 西日本豪雨災害等への対応

9億5,784万円

- ① 市道の災害復旧事業等の受託による早期復旧等に向けた支援 4億5,890万円
- ② 公立福祉施設の災害復旧事業に係る国庫負担率の激甚法に基づく嵩上げ措置 7,644万円
- ③ 令和2年7月豪雨により地すべりが発生した大洲市矢の口地区の対策工事 3億6,947万円
- ④ 令和2年7月豪雨により法面が崩壊した川之石高校実習園の災害復旧 5,303万円

(2) 県単独緊急防災・減災対策事業

33億9,680万円

- ① 緊急輸送道路等の整備 15億7,840万円
- ② 河川、海岸、港湾施設の改修 3億8,576万円
- ③ 河川の氾濫を防止する河床掘削の推進 10億1,440万円
- ④ がけ崩れ防災対策の促進 1億1,860万円
- ⑤ 土砂災害を防止する砂防施設の整備 2億9,964万円

3 当面する課題への対応 22億1,862万円 ◀うち国民健康保険事業特別会計5,234万円▶

- ◎ ① 令和4年のプロ野球オールスターゲーム開催に向けた機運醸成 965万円
- ② 市町の事務負担軽減を図るための健診予約システム等の機能向上 ◀国保特別会計▶ 5,234万円
- ③ 税制改正に対応するための県税システムの改修 9,989万円
- ④ 財政基盤強化積立金への決算剰余金1/2相当額の積立て 20億5,674万円
- ⑤ 郷高架橋（八幡浜道路）の工期延長に伴う債務負担行為 [債務負担行為3億6,751万円]

予算規模

- ◆ 一般会計 162 億 2,585 万円 【累計 7,666 億 4,925 万円】
- ◆ 特別会計（国民健康保険事業） 5,234 万円 【累計 2,599 億 1,587 万円】

令和2年度 12月補正予算について

今回の12月補正予算は、次の経費に限定して編成

- I 感染症患者の受入病床の確保や、住民生活の維持のための貸付原資の増額など、新型コロナ対策に要する経費
- II 令和2年7月豪雨で被災したJR内子線の災害復旧など、当面措置を必要とする経費
- III 人事委員会勧告に基づく給与改定経費

1 新型コロナウイルス感染症への対応 54億9,622万円

◎は新規施策を含む

コロナ対応予算総額：1,115億円
(R元年度：5億円 R2年度：1,110億円)

- | | |
|---------------------------------|------------|
| ① 感染症患者の受入病床確保に係る国補助基準額の引上げへの対応 | 18億3,575万円 |
| ② 生活福祉資金の特例措置による生活を維持するための貸付け | 36億4,300万円 |

2 当面措置を必要とする経費 9,683万円

- | | |
|---------------------------------------|---------|
| ◎ ① 令和2年7月豪雨で被災したJR内子線の災害復旧支援 | 4,575万円 |
| ② 令和2年7月豪雨で被災した農業用ハウスや機械等の再導入及び修繕への支援 | 1,083万円 |
| ③ 私立高校の耐震改修への支援 | 3,000万円 |
| ④ 加工食品の輸出促進に向けた衛生管理基準対応設備の導入支援 | 1,025万円 |

3 給与改定経費 ▲5億 116万円

(1) 一般職 ▲4億9,797万円 (一般会計 ▲4億2,491万円、企業会計 ▲7,306万円)

【給与改定の概要 (人事委員会勧告どおり)】

- | | |
|---------------|--|
| ① 期末手当の年間支給割合 | 0.05月分減 (期末2.60月分→2.55月分)
(勤勉1.90月分：据置き)
※期末勤勉年間支給割合：4.50月分→4.45月分 |
| ② 実施時期 | R2年12月1日 |

(2) 特別職 ▲319万円 (一般会計 ▲313万円、企業会計 ▲6万円)

期末手当の年間支給割合の引下げ 0.05月分減 (年間支給割合：3.40月分→3.35月分)

予算規模

一般会計 補正予算額 51億6,501万円 【累計7,718億1,426万円】
企業会計 補正予算額 (3会計) ▲7,312万円 【累計728億6,207万円】



県立南宇和病院の機能強化に向けて

議員をさせていただき、これまで継続して取り組んできた愛南町における医療の充実についてですが、少しずつカタチになってきています。愛南地域遠隔医療システム整備事業をはじめ、院内に愛媛大学医学部地域医療学講座のサテライトセンターを設置し、医学生の教育と官民の連携にも取り組んでいます。また、一般質問の答弁にもありましたように、今年度は常勤医師が前年度比2名の増加をしていただきました。今後も地域の皆様がより安心して暮らせられるように、診療体制の強化や各診療科の常勤医師の確保など、医療の充実に取り組んでまいります。





活動のご報告

activity report



LS21 政策立案勉強会



中村知事が主催する、地域制作研究会の中でそれぞれの分野の活動の報告発表に参加しました。私は「観光チーム」の一員として DMO との連携やデジタルマーケティングの活用など、提案と課題等をプレゼンしました。



若手農業者との意見交換会

南予地方局長はじめ担当課長をお招きし、愛南町の若手農業者との意見交換会を開催しました。様々な施策が机上の空論にならないように引き続きしっかりと現場の声を聞いて参ります。



若手漁業者との意見交換会

南予地方局長はじめ担当課長をお招きし、愛南町の若手漁業者との意見交換会を開催しました。活発な議論で大変有意義な会となりました。



委員会県内視察①

委員会県内視察で大三島のサイクリスト向けゲストハウス「wakka」を訪れました。欧米からの来客も多く、しまなみの自然とサイクリングを上手く活用し、インバウンドの獲得と地元雇用にも繋がっている素晴らしい施設でした。愛南町にも豊かな自然景観と産業があるので良いヒントになりました。



委員会県内視察②

委員会県内視察で新居浜市防災センターを訪問し、防災意識の向上に向けた取り組みについて関係者から説明を受けた後、施設内の視察と災害の疑似体験を行いました。その後松山市内に戻り、愛媛県立衛生研究所にて新型コロナウイルス感染症の検査体制を視察。今般の感染症も災害の一つと考え、様々な観点で県民の暮らしと安全を考えます。



愛媛県議会議員

中田こうたろう

〒798-4110 愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城 3740
TEL 0895-73-0500
FAX 0895-73-2822
E-mail koutarou19850226@gmail.com

所属委員会

環境保健福祉委員会
えひめ ICT 未来創造特別委員会

役職

愛媛県生活衛生同業組合 顧問
愛媛県相撲協会 参与
愛媛県薬剤師会宇和島支部 顧問
宇和島市倫理法人会 顧問

活動情報
発信中!



☝ スマホの方はこちら

<https://nakata-ainan.jp/>

